

地域活性化起業人と小さな温泉町の可能性

—兵庫県美方郡新温泉町を舞台に—

株式会社 5-RELAX 地域活性化起業人 阿瀬 宏太

●はじめに

今日が一番の本題である、地域活性化起業人について、これはどういう仕組みで、どういう人が働いているのかをテーマにお話させていただきます。

私は現在、兵庫県新温泉町役場に派遣というかたちで勤務しており、活動内容や展望についてのご紹介をさせていただきます。

新しい活動先や活動地での取り組み方や苦労話なども後ほどお伝えしていきます。今、起業や就職されている方もおられるかもしれないですけど、今後、皆さんが会社に勤務するようになった時の参考に少しでもなれば良いなと思います。また、皆さんも“自分ならこうする”など、お考えいただけたらなと思っております。では、よろしくお祈りします。

●自己紹介

まず、自己紹介です。名前は、阿瀬宏太といいます。株式会社 5-RELAX で働いております。2020年の4月から兵庫県にある新温泉町というところで地域活性化起業人として活動しております。私が持っている資格は、柔道整復師と鍼灸師。聞いたことあるかもしれませんが、身体をケアするような資格を持っております。この資格で地域活性化をどのようにしているのかという話は後ほど説明させていただけたらと思います。その他、日本ストレッチング協会というところの講師をさせていただいたり、NHK文化講座の講師をさせていただいたりというようなことがあり、地域活性とは全く関係のないことを本来はしておりました。

会社説明のスライドです。まず、事業内容としましては、メディカルフィットネスということで、コンディショニングラボというものが、旭区と西宮市夙川にあり、そこで鍼灸・接骨院を併設したパーソナルトレーニングGYMを運営しております。最近流行っていますけども、ボディメイクとか、ケガをしない身体づくりをコンディショニングラボというところでさせていただいております。また、スポーツトレーナーの派遣や育成をおこなっており、この事業が5-RELAXという会社のスタートでした。多くの高校生や実業団、社会人チームに対してトレーニング活動をしています。さらに、地域に対しての活動としては、健康講座や運動教室の開催などをしており、当時私が担当しておりました。

た。スライドにWEBマーケティング書いておりますが主に、同業者である鍼灸・整骨院だとか、パーソナルトレーナーの方々からの依頼を受けて、ホームページの作成や、コンサル業も担当スタッフがおこなっております。

医療とスポーツに特化した会社ということで、まず、医療分野としては、治療・予防・健康という3つの医療があります。どの医療に対しても、先ほどのコンディショニングラボで全て担えるようにスタッフを配置しております。外傷、ケガや痛みに対してのケアができる治療、ケガからの復帰や再発しにくい身体作りやリハビリテーションをおこなう予防医療、ケガをしない生涯動ける身体づくりということで、コンディショニング。この中で運動をしている方もおられると思いますが、運動愛好家のコンディショニングを調整や体調管理、一般の方へは健康体を維持するための身体づくりということをさせていただいております。

スポーツ分野は先ほど説明させていただきましたが、学生や、実業団、アスリート、プロの選手など。直近で言うと、パラリンピックに出られた方なども、トレーナーとして、携わらせていただきました。様々なご縁がありまして、そういうプロの選手に対してのトレーニング指導なども行っております。その他に、テーピングの講習会をおこなっております。

●地域活性化起業人の概要

では、ここから本題に入らせていただきます。まず、地域活性化起業人について。あまりメジャーではない、こういう職業と言っていいのか、こういう仕組みがあることを、聞いたことがない方のほうが大半かなと思います。プログラム自体は、総務省が管理しておりまして、地域振興の取り組みの一環として制度をつくりました。スライドを読ませていただきます。「地方への人の流れをつくる」というところで、地方公共団体が三大都市圏に所在する企業等の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かし、地域独自の魅力や価値の向上に繋がる業務に従事する」と書いてあります。要は、会社員が、地方公共団体に入り込む。そこで会社員の持っている、もしくは、その派遣元の企業が持っているノウハウや知見を活かして、各地域の魅力や価値をもっと向上させようじゃないかというような取り組みが、地域活性化起業人というものです。

次に、社会貢献とキャリアアップが鍵というふうには書いて

てあります。「地域の課題解決といった自治体のニーズ」に、あまり関わることはないと思いますが、地域、特に地方にはいろんな課題というものが多くあります。それらを解決したいという自治体のニーズに対して、企業が持つ知識や資源を用いた事業を展開、もしくは、地域の事業者さんや公共団体とタイアップした上で地方圏への人の流れを作ることもとても大事になります。

●社会貢献とキャリアアップが鍵

「社会貢献と地域のニーズの架け橋になることで、人材育成やキャリアアップの効果も期待される」と記載があります。社会貢献というのは、多くの世の中の企業もされておられますが、企業にとって地方自治体などと協力、行政と協力し官民連携することによって、地域の課題解決が世の中でも多く行われています。会社を経営する上で、利益を優先に考えないといけません、それだけじゃなくて、社会に対して何か取り組みをおこなうことでイメージアップにもつながるかもしれません。勿論それだけではなく、各企業が掲げるミッションやビジョンがベースとしてある上での社会貢献でもあります。ちなみに株式会社5-RELAXのビジョンの中に「笑顔に溢れる社会をつくる」とあります。

人材育成やキャリアアップに関しては、起業人としての私自身と活動先にいる方々の両方にあたります。先ほどお伝えしたように、私は基本的には治療家、もしくはスポーツトレーナーであるのですが、そういう人間が全く職種の違う“行政”で仕事をおこなうだけで、様々なスキルアップにつながります。とても単純なことですが、知らないことだらけからスタートすることになります。逆に、活動先の地方自治体は、私の会社の持っている知識やノウハウを知ることによって、新たな学びに繋がるため結果的に人材育成や、スキルアップにもつながりますので、ここは大事なところかと思えます。

●地域活性化起業人の活動分野

それで、地域活性化起業人って結局何をしているの？と、いうところが一番気になると思います。このスライドは私ではなく、他の起業人の過去の活動内容の例です。1つは、地方での観光振興ですね。これに携わっている起業人が一番多いかもしれませんが内容は、地域産品の開発や販路拡大、地域資源の活用を中心として町おこしなどが主です。また、ICT分野。地方の町役場で、こういうものに強くないところがまだまだあるので、外からの人を呼んで、もっと情報発信をしていこうと思っている地方自治体の方が多いです。さらに地域経済の活性化と記載がありますが、中小企業のハンズオン支援。大手企業が主にされているの

ですが、地方の中小企業の会社の経営にちょっと携わることです。ハンズオンとは、直訳したら“手を置く”という意味ですけど、金銭的な支援だけではなく、連携してアドバイスをする場合などもあります。

ちなみにですが、地域活性化起業人の活動期間は、半年から3年間と決まっております。これは、半年が短いと思うか、長いと思うか。3年が短いか長いかというのは、それぞれの考えとしてはあると思いますが、限りがある中で業務に従事しなければなりません。活動期間に関しては、企業と受入れ団体との契約で決定することが出来ます。

●企業とのマッチング

地域活性化起業人として活動するには、三大都市圏に所在する企業等の社員という決まりがあります。受入団体は、三大都市圏外の市町村、条件不利地域、離島も含まれます。あとは、人口減少率が高いエリア。どんどん人が少なくなってきて、過疎化が激しいとか、少子高齢化が進んでいるとか。一般的に言う“都会”ではそんなことはみられにくいですが、地方に行くと、そういうことは当たり前のようにありますので、いかにして人を呼ぶか、また、どのようにして関係人口を作るのか、移住定住してもらうためにどのようにアピールするかとか、そういう課題が地方には多くありますので、地方に受入団体が多い仕組みとなっております。現在、今年の4月1日時点では、これだけの団体が受入可能です。起業人の方を募集している地方公共団体は64件。64団体という言い方もできますが、その中で77人の募集をかけているという段階です。また、これについては、あとで説明させていただきます。

どうしたら、その地域活性化起業人と地方公共団体を結ぶことができるの？という説明をさせていただきます。総務省が管理しておりますので、総務省へ市町村が連絡をして起業人という制度を利用したいと連絡をするところから始まります。先ほどの条件に当てはまれば認定されます。総務省のホームページに、地域と内容を専用ページに掲載することが出来ます。その募集リストを企業が見ることで、自分の会社でこういうことができるのかなど、これは得意だから、そこの地域と一緒に何かできないかなど、常に企業も、先ほどの社会貢献や販路拡大に繋げるネタを探しています。その地域だけじゃなくて、企業側にもメリットがあることを常に探しているわけですので、制度を多くの企業は見えています。

次は、繋がりのある企業と募集団体が合意するというパターンです。合意後に総務省に連絡して、受理してマッチング成立ということになります。また、企業が総務省のホームページの募集リストを見て、これができるよとか、ここと一緒に何かしたいなということがあれば、そこの市町

村へ直接アプローチすることも出来ます。

株式会社 5-RELAX の場合は、繋がりのある市町村と合意。もともと新温泉町役場とは繋がりがあって、トレーナー活動として、その町に行かせていただいたことから役場の方との繋がりが、「地域活性化起業人制度で来てほしい」というご相談がありました。合意までの経緯は後ほど説明させていただきますが、結果的に新温泉町役場企画課おんせん天国室というところに私が今、派遣されてきたということになります。

このスライドは、総務省のホームページで市町村が募集している例ですね。北海道の岩内町という町での募集業務は総務と書いてあり、内容は政策調整や行政改革、そして地域情報化の推進などです。先ほどお伝えしたように、地域に行けば行くほどDXやITという分野が弱かったりしてきますので、ノウハウを持っている企業の人に来てほしいなということで、ここは募集されておられると思います。

次は、北海道の中富良野町です。ここでの業務としては、観光振興です。富良野と言えば、ラベンダー畑が有名であると思いますが、観光人口が低下してきているため多くの人に訪れてほしいと考えておられるかもしれません。地域のブランド力を向上するために何かつくってほしいだとか、商品開発、販売してほしい、そういうことに長けた企業に来てほしいというような募集内容がここに書いてあります。募集人数は1人とは限らずに、2人募集しているパターンもあります。同じ会社から2人の場合もあれば、A社B社から2人来て、それぞれ得意な業務をしてくださいということで、2人募集しているところもあります。地域活性化起業人の制度が始まったのは、平成26年です。当時、受入れた自治体数が17で、企業人数が22名しかいなかったことに対して、令和2年度には、受入れ自治体数が98にまで増えました。人数は148人ということで、地方自治体などが地域活性化起業人のノウハウや企業の力を必要としていると考えます。ニーズがしっかりと見えているということは、この数値で分かってくると思います。

●活動例

滋賀県彦根市では、株式会社 JTB の地域活性化起業人が現在活動されています。JTB という会社を一度は聞いたことがあると思います。観光振興で滋賀県彦根市と協定を結ばれたところなんです。観光の宣伝や観光協会職員の人材育成ということで、JTB さんの接客に対するホスピタリティのノウハウや、集客方法などの得意分野に対してもご指導されていたと思います。

次の活動は、伊那市と沖電気との協定。IT のノウハウを活用して IoT 官民ネットワークに力を入れておられます。再三お伝えしますが、地方に行けば行くほど、まだま

だアナログな部分が多かったり、できる人が少なかったりということで、こういう制度をフルに活用している人が多いという理由です。

過去に活動された企業のご紹介ですが、Yahoo、ソフトバンク、イオングループ、近畿日本ツーリストや LIFULL などあります。LIFULL では、空き家問題。地方には空き家問題が深刻であり、空き家の利活用に貢献されたと思います。地域課題の解決策として空き家をどう活用すべきかを企画・提案されてからの活動スタートだったとここには書いてあります。それぞれの地域活性化起業人の専門知識・経験・人脈・ノウハウの活用で地方をもっと盛り上げていこうという制度の一つであります。

●メリットとデメリット

まず、受入れ先のメリットは先程お伝えしたように専門知識を持った人材が来ることにより新たな可能性を作り出すことです。そこに、ほとんどお金を掛けずに活用出来ることもメリットとなります。基本的には総務省から起業人の活動費（給料）が支給されるため、受入れ団体からすると、持ち出しなく町にとっていいことをしていただけというシステムであります。そのため、起業人をどう活用するかによって、その町が変わってきますので、そこは『鍵』というふうにかかせていただいております。

次に企業側のメリットですが、先ほどお伝えした社会貢献につながることで、派遣元企業としても派遣した起業人自体の育成やスキルアップにつながることで。私の場合は、ノウハウやスキルを活用し活動するだけではなく、役場に入り込んでいるので、役場の業務の一部も手伝っています。経験したことのない仕事をおこなうことで、新たな知識も人脈も増えました。双方にとって考え方によりますが、メリットは大きいと思います。

次にデメリットです。あくまで個人的な意見ですが、総務省との手続きや管理に時間がとられることです。また役場のルールなど、私みたいな知らない人間に対してシステムを教えないといけないので、そこにも少なからず時間がかかるし、指導する側の人の手がかかるという意味で、デメリットだと思っています。

派遣元の会社のデメリットは会社から人材がいなくなるということです。私で言うと、20名程度しかいない小さな会社で、少なからず5年勤務していました。その人間が現場からいなくなると、その穴埋めをしないとイケない。誰かを雇わないとイケなかったり、引き継ぎに余計な時間がかかったり、お金がかかったりするという意味で、デメリットとしてあげています。

しかし、地域活性化起業人としてスタッフが1人抜けたことでデメリットにもなりますが、結果的に新しい縁が出

来ることや、そのあとの事業展開などに繋げるキッカケを作ることが出来るため、大きなメリットとして捉えることも出来ます。

●地域おこし協力隊との違い

「地域おこし協力隊」と、聞いたことある人は多いかもしれません。これも総務省で管理しております。都市から過疎地域等の条件不利地域に移住して、地域ブランドや地場製品の開発・販売・PR等の町おこしや、地域住民の方への地域協力活動をおこなう制度の1つです。起業人との大きな違いは、移住しなければならないというルールがあり、任期後は定住・定着すること。定住するという事は、生活する上で職についても考えなければならないです。起業するか、どこかで働かないといけないということ。そういう移住・定住・定着ってということが、絶対では無いですが、協力隊には定められております。

現在、全体で5,556人見込みと書いていますが、それだけの人が活動しています。受入先の町に住まないといけないので、住民票をその町にうつすことからスタートし、その方々の持っているノウハウだとかスキルを用いて、町おこしをしていただくといった内容です。

2つの制度の違いに対する詳細です。まず対象者ですが、地域活性化起業人は会社員です。地域おこし協力隊は個人です。余談ですが、皆さんが行きたい会社がないとか、地域活性の仕事がしたいという方は、地域おこし協力隊になるのもありかもしれません。活動経費は、地域活性化起業人は年間560万円です。1人の地域活性化起業人に対して、毎年振り込まれます。地域おこし協力隊は、470万円もらえます。先程お伝えしましたがこれらは、総務省から支給されます。活動時間ですが、私は役場の職員と同じ時間軸での活動という契約のため、朝8時半から夕方5時15分の定時までで週5日勤務しております。あくまでこれは私の場合であり他の地域の起業人はまた別の契約があります。地域おこし協力隊に関しても新温泉町ルールですが、月に124時間の活動が義務付けられています。計算すると1日8時間、週4日の活動掛ける4週間でクリアできます。合計124時間活動して、470万円丸々給料ということではないですが会社員と比較すると良いシステムだなと、思っているところではあります。任期期間は、先ほどお伝えしたように半年から3年。協力隊も1年以上から3年間です。任期後の条件、特になしに対して、協力隊は、派遣された地域に定住と記載があります。しかし、その横に促進と書かせていただきました。協力隊が町に合う・合わないということがあり、3年後、もしくは、途中で「さようなら」という人が多いみたいです。これは日本全体で言えることですが、文化や習慣などの地域性や人との問題

など着任してみて初めて分かることは多く、戸惑う方も多いと聞きます。

任期後の収益活動だけではなく、自分のしたいことを明確にしておき、周りにも協力していただける方を作っておくことが両者ともに大切になります。

●兵庫県新温泉町との出会い。

皆さん、温泉は好きですか。新温泉町って知っていますか。知らない方のほうが多いですね。温泉好きな方は、何故、温泉に行きますか。世の中の統計としては、「リフレッシュしに行く」という答えが一番多いようです。言い方を変えると、リフレッシュやリラックスは温泉地でも出来るということですね。

これは新温泉町役場がつくったプロモーション動画です。先にこちらを観てください。

良い意味で田舎ですね。自然豊かな町です。最初に池田先生からご説明いただきましたけど、鳥取県と県境にあります。町の名前に温泉という言葉が入るくらいですので、もちろん温泉があります。湯村温泉と七釜温泉、浜坂温泉という、この小さな町に3カ所も別々の泉質を持った温泉が湧出しております。どれも源泉かけ流しの新鮮な温泉です。そして名産品は、先ほどの動画にもありましたが、但馬牛、松葉カニ、ホタルイカなど。主な産業は、農業、お米の映像もありましたが、お米。漁業、畜産業、サービス業、旅館など。人口は14,000人いないです。その中で高齢者が3割弱もおられる。少し古いデータですけど、兵庫県下で高齢者が多い町ランキング2位です。まだまだ特徴はありますが、新温泉町の宣伝になるため、このくらいにしておきます。

そんな新温泉町と私のきっかけについてです。2019年に環境省が主催の「新・湯治コンテンツモデル調査」というものに、職員さんが『温泉地×温熱×リラックス』というもので応募して見事に採択されました。全国で3件だけしか採択されてないうちの1件が、新温泉町でした。ここに記載してある『温熱』についてですが、湯村温泉の温泉は98℃という高熱温泉が特徴で、毎分470リットルもの量が湧出しています。そして、この写真にある川沿いの遊歩道に人が寝転がっているところの下に配管を通して川の下流に流しています。その配管はとても熱く、まるで岩盤浴のように地面が温められています。その場所を使ってリラックス出来るコンテンツを作りたいということで、弊社に役場から相談がありました。これが新温泉町との最初の事業です。『温泉×リラックス』ということがテーマであったため、温泉熱を利用したコンテンツである『温熱リラックス』というプログラムを作り、それがどのように身体に影響するのかという調査をおんせん天国室と共同で

2019年に実施しました。その後、温泉を活用して観光客を増やしたい、町民に対しても温泉と健康を掛け合わせたものを作りたいということや、観光客に向けた健康コンテンツの企画・開発を依頼したいとお話がありました。5-RELAX としてもこの地で新たな事業展開も考えていたこともあり、合意の上で新・湯治の町を一緒につくりましょうということになり現在活動しています。

新・湯治というのは、環境省が打ち出した言葉であり、主な内容は温泉地の活性化です。湯治とは呼んで字のごとく、温泉につかって、病気や様々な症状を治そうということです。現代でもおこなわれていますが、昔はもっと盛んでした。それに新しいという字が付いているので、温泉地にある地域資源、自然や歴史、文化、さらに、地の食材を多くの方に楽しんでもらいながら温泉地に滞在していただく目的で作られた言葉が新・湯治です。

●新温泉町での活動内容

新温泉町で約束通り新・湯治の町作りに対しての取り組みをおこなっています。まず、町民を健康にしてからじゃないと新・湯治の町と言えないため、町民向けの健康プログラムを作りました。温泉と運動を掛け合わせて健康的な身体を作る『温泉カラダととのえ塾』を開発しました。ネーミングセンスに関しては、ちょっと置いといていただきます。内容は、温泉施設で私が考えたトレーニングをしたあとに、温泉入浴するという内容です。また、入浴中に出来る運動も指導しております。意外と反応は良いです。町内にはトレーニングジムも無く、運動施設はあっても指導出来る人がいないことが現状です。運動を通じた健康に対する取り組みが一切なかったということでイチから制作しました。その活動のみで健康体操の指導やプログラム作成を健康福祉課という健康に携わる課から依頼されました。また、ケーブルテレビと呼ばれるローカルテレビ局があるのですが、そこで流すための体操を一緒につくって映像化しました。その他、健康講座の依頼もあります。ここでは温泉入浴の効果や入浴中に出来る運動なども伝えています。それをまとめたものを健康入浴パンフレットというかたちで、現在制作しています。

次に取り組み②ですね。先ほど、この遊歩道に寝ていた写真がありましたが、それが『温泉リラックス』というプログラムです。温泉熱を活用したリラックスプログラムをここでもさせていただきました。これは観光客に対してさせていただいております。旅館の部屋や飲食店にチラシを置かせていただき、集客しています。事前予約も SNS などから受け付けています。また、10月2日の土曜日に町の方々と一緒に「湯村の「夜」を楽しもう！」というイベントをしました。コロナ禍ではありましたが、多くの町

民や観光客が参加してくださいました。

取り組み③です。これは今、企画中のヘルスツーリズム。先程の映像にもありましたけど、町内には滝や森林、海などの多くの自然がありますので、それらを活用したプログラムを開発です。世界的には自然を使った健康法が多くあります。新温泉町も来られた方が心身ともに癒やされて健康になれる町作りとして進めています。

●新温泉町との取り組み

私も関わっていますが、町全体としての取り組みは、関係人口を増加。関係人口とは、町に複数回来る人だとか、直接的にその町にいらなくても、ビジネスとして繋がっていて町との関係がある方を指します。ちなみに観光客は、交流人口という言い方をします。町としては、もちろん定住人口も増やしたいので、ここに至るまでの道筋として、町との関係性を作り、町を知っていただくことが大切となります。その他の住みやすい町作りのためのインフラに関しては直接的に関わっていませんが、それも必要なことですよ。

関係人口増加を目的として、ワーケーション推進協議会というものをつくりました。ワークとバケーションを合わせた造語ですが、新温泉町ではワークとコミュニケーションを合わせたものをワーケーションと呼んでいます。ビジネス目的で訪れてくる人は、パソコンを触るだけでなく、現地の人と繋がり様々な会話から仕事を作っていただきたいという思いもあり、また、第2の故郷のように「あの人に会いにまた帰ろう」と、思っただけのような仕組みを作っているところです。

2020年10月にFAMトリップ (Familiarization Trip) を実施しました。関東圏からIT関係者、食品関係、旅行会社、あと、起業研修されている組織の方などを12名お呼びしまたり、別の事業として補助金を2,000万円使用したサブスク型ワーケーションを実施しました。月に7泊していただくシステムを構築して合計30名を募集しました。それを3カ月間、毎月来ていただき、交通費と宿泊費は全て補助金から出しました。ここに来られた方々は、毎月、7泊タダで泊られます。しかし、その間にちゃんとこの町をよく知ってファンとなり、いろんなところにアプローチして、町の人と繋がった上でビジネスとして成立させていただくというようなことをしていました。軽い旅行気分で来られないようなシステムにすることが重要でした。結果として、様々なビジネスが生まれ、食材に関しては、ワカメとか海産物を東京のお寿司屋さんが気に入っていただき定期購入することになったり、ECサイトで販売する人が出たり、老舗の佃煮屋が買い取って商品化したりと、新たなビジネスが生まれました。

空き家問題に対しては、サテライトオフィスやコワーキングスペースを作る方が現れました。そこにカフェを併設するというような動きがあり、現在は、関東との2拠点生活をされています。ちなみにその方は、池田教授のゼミの教え子さんです。

IT関係の方は、とても以外ですがシカとのコラボです。イメージが付かないと思いますが、新温泉町にも害獣被害が多くあり、特にシカとイノシシによる被害が多いです。そこでITを活用した罠の開発をされました。シカが入ったらガチャンと閉まるようなゲージをイメージしてください。そこにIT罠を仕掛けて、シカが入って罠が発動したら「はい、シカ、入ったよ」と、スマホにLINEで知らせるというものをつくられました。猟師さんからしたら毎回「今日、シカが捕まっているかな」と、見に行かなくてもLINEで通知されるシステムをつくったことにより無駄が省かれます。現在はさらに制度を高めるために開発中です。

旅行会社の方は、オンラインツアーをされました。地元食材を参加者の自宅に届けてリアルタイム映像を見ながら楽しんでもらうシステムです。例えば、カニを自宅に届けてテレビやパソコンを観ながらカニソムリエと呼ばれるプロの方がカニの捌き方をレクチャーしてくださるので一緒に捌いたり、美味しい食べ方を聞きながら食べたりしました。また、別の回では但馬牛をお届けしてシェフが家庭のフライパンでも美味しく焼ける方法をお伝えするという内容のオンラインツアーを企画されました。

どこの町でもいえることですが、人が動けば新しい動きが生まれるということを再認知出来ました。

●今後の活動や展望

会社として健康や医療というところが得意分野ですので、先ほど『新・湯治の町』とお伝えしましたが、心と身体の健康に対して、大自然を活用したものとか、ワーケーションと健康を掛け合わせて健康経営を謳う企業誘致を現在おこなっている最中です。また、未病型湯治プランも同時に企画中です。湯治については先程お伝えしたように、基本的には病気になった人が温泉地に行って、温泉の成分を活用して病気を治すことではありますが、未病とは病気を未然に防ぐということです。病気にならないための身体を作ることが大切になります。自分の健康について考える人が新温泉町へ行くという流れを今後作りたと思っています。また、それは自社だけでつくるのではなく、旅館組合の関係者の方や町の人たちと一緒につくっていかなければ、町全体が『新・湯治の町』という認識にならないので、町の人たちと一緒につくっている最中です。

●派遣先の町で直面したこと

私の場合は地域に入っていますので、ここは説明したい部分です。結論を言うと、出る杭は打たれるという印象を最初に受けました。私みたいなヨソモノがいきなり何かをしようとすると打たれるという経験をしました。あとあと理由はわかるのですが、町のために良い行いをしようとしたにも関わらず、打たれました。

例えば、湯村温泉には荒湯という温泉が湧出している場所があり、ここでは誰でも温泉卵を作ることが出来ます。ここでは、『ゆがき』という文化があり、その文化をもっと面白く広めようと考えた結果、温泉卵だけじゃなくて、いろんなものを“ゆがいたら”面白いと思い地元食材で作られた竹輪だとか、こんにやくつけたら、おでんみたいになっていいじゃないのとか、ジャガバターがつかれるじゃないのとか、というようなことを”とある協会“に提案しました。最初は「それ、いいね。一緒にしよう」って言ってもらったのですが、その話が途中から変わってきまして、結果的に人がいないとか、お金どうするのとか、他の物を“ゆがいては”いけないと言われました。それいいねと言ったわりには、最終的にはめんどくさいから余計なことをするなという雰囲気を出されました。それでも町を活性化したいという想いから自力で協力して下さる方に声をかけて段取りして、『荒湯マルシェ』というイベントを開催しましたが“とある協会”と思うようなカタチでイベントが出来ませんでした。ヨソモノとして町に来た以上、町の活性化のために動きたい一心で行動したにも関わらず、余計なことをするなと言われました。ちなみに、今では仲良くさせていただいております。杭を打たれた原因としては、関係性の構築が出来ていない状態であれやこれや言ったことでした。逆の立場からしたら、いきなり言われても困ることは当たり前であったり、過去に色々してきた背景があるため、同じことをしても無駄だという気持ちがあったりとするわけですね。それを最初に教えてもらえなかったということは残念でしたが、現実でした。

次は先程とは違う意味での人の問題です。人口が明らかに少ないので、何かをしようとしても人を集めることがとても大変です。コロナ禍という背景はもちろん関係するのですがそれは置いて、イベントやデータを取りたいからと呼びかけても、人がいない。人を集めるツールの1つである役場の広報誌にも色々掲載するのですが、あまり見られていないため、不発に終わることも多々あります。そこも自力で声掛けやSNSを通じて発信をしていました。絶対的に人の母数が少ないということで、都会では簡単にできる事がこちらでは簡単ではないため、とても苦勞しています。

●派遣先の町に必要なモノとコト

“ヨソモノ”であることを武器することです。外から来たことで視点が違います。それを力に様々な提案が出来ます。とても良く見えるものを、町の人からすると、「それは当たり前」や「それで人は来るのか？」と、というようなことを言われます。町の方は慣れているため、良いモノコトを良いと気付いていないことがあります。ヨソモノ目線でその町の資源を活用できることが多いので、ずっとその町に慣れすぎずに、外モノであるという立ち位置から、いろんなものを開発とか提案企画していくのが必要だと思っております。とは言うものの、町の方に溶け込まないと、信頼もしてもらえないし、1人では出来ないことも多々あるので、町のイベントに参加するとか、土日にある草刈りなどにも積極的に参加して名前と顔を売る。関係性が出来たところで「こんなん考えています」と、いう相談をすることで「じゃあ、ちょっと今度一緒にやってみようか」と、いうのが流れを作っています。本来の職務とは全然関係ないところまで入り込まなければ、モノコトを作っていくことが難しいです。これは地方あるあるかもしれません。

あとは、自分の強みと弱みを共有すること。協力関係を構築する上でも、そこを明確にしておくことで支えあうことも出来ます。不得意なことももちろんあるので、出来る事と出来ないことしっかりとする必要があります。これは誰でもそうだと思いますが、改めて自分の強みと弱みは何かということをしかりと考える必要があります。地域に限らず、学校でも社会に出ても一緒ではありますが、それらを意識した上で行動してみてください。

●楽しくなければ続かない

これは個人的に今後取り組みたいと思っていることです。利益の追求だけではなく、地域活性を趣味として。“面白い”とか“楽しい”を形にして町を盛り上げたいと思っています。町の人と一緒に地域活性したいと考えた際に、嫌々ではなく楽しいことだと参加してくださる人も維持できるし、増加にも繋がります。ちょっとずつチーム編成ができて来ましたが、単発じゃなくて、それをずっと持続可能なことにして、それを地域課題と絡ませて、地域を楽しく盛り上げようと動いております。様々な課題はたくさんありますが、それを、課題としてではなく1つの“資源”というふうにプラスに考えて、その資源をどう活用するかというのを常に考えたほうが、楽しく活動できるなどというふうに思っております。

新温泉町の資源として耕作放棄田があります。使わなくなり放置された田んぼのことです。この写真ですが、棚田といいます。田んぼが段差になって構成されており棚のようになっていることからそう呼ばれます。これを使って何

か出来ないかと考えた際に、得意分野のスポーツと田んぼを掛け合わせて遊べるイベントを企画して人を呼べないかと考えていました。とても単純ですが、この棚田を下から上まで駆け上がることを競争する“棚ダッシュ”というイベントです。棚田とダッシュを掛け合わせたダジャレです。普段できないことをする喜びや楽しみ、運動することでの健康増進にも繋がります。小学生の部や大人の部に分けて、競争して優勝した人は、新温泉町産のお米1俵とか但馬牛500グラムとか何でもいと思います、地元の人観光客も交えて人が集まる楽しいイベントにできないかと考えたりしています。

別の企画ですが、ぬかるんだ田んぼに足をつけられたことある人おられますか。田んぼに足をズボッって入れたら、なかなか抜けないのでとてもしんどいですよね。その環境の中でボクササイズしたら、激しくエネルギーを燃焼することからダイエット企画になるのではないかなど、くだらないことを考えています。名前は“田んぼクササイズ”です。完全にダジャレですね。なんでもいいのです。「何かあの町、変なことをやっている。ちょっと行ってみよう」という方が増えたらいいなと思っています。

●最後に

今回の講座を通じて地域活性化起業人の仕組みや協力隊との違いは何かということ、また、新温泉町について少しでも知っていただけたら良いと感じます。

また、社会に出ることで様々な問題に直面します。その時に、自分の強みと弱みを理解した上で行動することで解決できることも多々ありますので、改めてお考えいただけるキッカケになったら良いと思います。